

報道機関各位

大正大学による調査研究等を実施します

当町は豊島区と防災協定等を通じて交流を推進しています。さらなる交流を推進するにあたり、豊島区と地域共創に関する協定を締結している大正大学に当町の魅力や課題について調査・研究を行っていただきます。

調査研究期間

1 回目 平成 29 年 8 月 30 日（水）～9 月 2 日（土）町内における調査・研究

2 回目 平成 30 年 2 月中 調査・報告会 ※日程調整中

調査員

学校法人 大正大学（東京都豊島区西巣鴨 3-20-1）

地域構想研究所研究員・地域創生学部講師 中島 ゆき 氏

地域創生学部地域創生学科の学生 5 人

調査研究内容

昨年度実施した調査研究を踏まえ、定住・Uターンに向け「町への愛着を持つ機会」の実態を調査研究し、町民が共感できる効果的な情報発信などについて、政策提言を行う。

<調査内容>

(1) 町民が“町を知る”機会の現状調査

方法：インタビュー、視察、データ収集

(2) 効果的な情報発信に関する現状調査

方法：インタビュー、視察

※ スケジュールについては別添資料をご覧ください。

添付資料 有 無



企画振興課

(政策調整担当課長) 今井政文 (担当) 平澤昌輝

電話：0265-79-3111 (内線) 114

FAX：0265-79-0230

E-mail：kizai@town.minowa.lg.jp

1 テーマ

「移住定住・Uターンにおける箕輪町の優位性と課題
～町への愛着を持つ機会の実態と効果的な情報発信～」

2 目的

昨年度実施した調査研究を踏まえ、移住定住について、特に「住み続ける」「暮らし続ける」定住対策や一度町外に出た若者を呼び戻すUターンに向け、当町が持っている魅力や地域力の優位性等について調査研究を行い、若者や女性をはじめ町民みんなが地域への愛着や地域との絆を深めるための方策等提言をいただく。

3 調査概要

(1) 現地調査（8月30日（水）～9月3日（土）、2月）

視察及びヒアリング調査を行い、若者や女性をはじめ町民みんなにとって「ふるさと」と思える箕輪町となるため地域との関わりや郷土学など「町への愛着を持つ機会」の実態を調査するとともに、移住定住・Uターンにおける優位性につなげるための効果的な情報発信について、政策提言を行う。

ア 「ふるさと」と思える町づくりに関する提言

昨年度の調査研究や人口推移、若者の流出状況等のデータを踏まえ、第5次振興計画による「ふるさと」への愛着や誇りを町民みんなが学び共感する方策についてフィールドワークや町民等を交えたワークショップを行う。

イ 調査報告会

データ整理・分析やフィールドワーク、ワークショップ等の結果から得られた方策について報告。

(2) こども大学 ～みんなで描く 箕輪の未来～（日程調整中）

地域学習に取り組んでいる町内小学生と都会（豊島区）の大学生との交流により、地域づくりについて学ぶ機会を得る。

今年度は、ひとつの小学校を会場に日ごろの活動、将来の展望など地域について考えるワークを実施。

4 実施体制

(1) 教員・研究員

調査研究 : 中島ゆき（大正大学 地域構想研究所研究員）

ワークショップ : 山中昌幸（大正大学 地域構想研究所准教授）

こども大学 : 金子洋二（大正大学 地域創生学部講師）

(2) 学生

○調査研究/ワークショップ

大正大学 地域創生学部 2年 5名（※2班に分かれて実施）

○こども大学

大正大学 人間学部 教育人間学科 4年 2名（うち1名伊那市出身）

地域創生学部 2年 1名（飯田市出身）

箕輪町の愛着を高めることを目的とした町民が“町を知る”機会の現状調査班

1. インタビュー担当

大正大学地域創生学部2年生 根本大我／小川典宏／富永裕也

2. 目的

大正大学では、今回“箕輪町を知る”という機会を一つの指標として、具体的に「どのように」「何の」「町を知る」ことが、地域の愛着を育むことに寄与しているかを探索するものであり、活動の内容・回数・参加者と関係者とのかかわりの現状を調査する。

3. 調査内容

- (1) 箕輪町の歴史・文化・風土・産業等を、誰がどの程度知っているか。
- (2) 地域を知る機会
 - ・どのようなものがあるのか。
 - ・誰がどの程度、その機会を得ているのか。(情報発信はどのようにされているのか)
 - ・どのような内容が盛り込まれているのか。
- (3) 学校教育における地域学の位置づけ
- (4) “箕輪町を知る”ことで、地域への愛着はどのように変わるのか。

4. インタビュー対象（※対象は追加となる場合があります。）

- ・町の歴史や文化について知る機会（町郷土博物館学芸員）
- ・地域における古田人形などを通じた歴史文化の若い人への伝承（古田人形保存会）
- ・地域における社会教育（公民館、分館）
- ・地域の持つ優位性を活かして活動している方（箕澤屋、ローカルスタイル）
- ・小・中学校における箕輪学やキャリア教育等（教育委員会）
- ・その他

5. インタビュー内容

- ・現在の活動の内容
- ・ねらい、展望
- ・対象者の反応、課題

箕輪町の“情報発信”に関する現状調査班

1. インタビュー担当者

大正大学地域創生学部 2 年生 須田優太郎／関根大耀

2. 目的

本調査は箕輪町の「情報発信」に焦点を当て、その取り組みの有効性と課題、今後の活動のあり方を提起することである。多種多様な情報発信が可能な現代で、情報を発信することで箕輪町内での「町への親近感」が向上するものと期待される。そこで、活動の動機や内容、役割などの観点から町への親近感や地域愛が高まる「情報発信」とはどのようなものかを調査する。

3. 調査内容

- (1) 住民が求めるニーズと発信元が出す情報がマッチしているかどうか。
 - ・各年代で、どのような情報を欲しているのか。
 - ・各年代で、どのような情報に興味を持たれたか。
- (2) 各媒体で、箕輪町に関して「何のどのような情報」が発信されているか。
- (3) 各媒体は、どのように情報を入手しているか。
- (4) 各媒体は、行政や民間とどのようなリレーションをとっているか。

4. インタビュー対象（※対象は追加となる場合があります。）

- ・各媒体社様（みのお新聞、長野日報、伊那ケーブルテレビ（株））
- ・SNS で発信（212 伊藤真吾氏）
- ・箕輪町に関するブログ
- ・その他

5. インタビュー内容

- ・情報発信に対する媒体社の役割と仕事内容
- ・情報発信に対する心がけや目標
- ・発信する際の、情報の取捨選択の線引き（取り扱う情報の優先順位など）
- ・媒体の購読者属性と自社で把握されている各属性のニーズ
- ・この仕事に就いたきっかけ
- ・情報を受け取る側の人々についての配慮またはお考え
- ・地域への愛着に対するお考え

等

大正大学 箕輪町調査・研究スケジュール

月日	時間	情報発信G	時間	町を知るG
8月30日 (水)	11:10	伊那松島駅 着 打ち合わせ・昼食	11:10	伊那松島駅 着 打ち合わせ・昼食
	13:30	みのわの魅力発信室 (役場)	13:30	町郷土博物館 (博物館)
	15:00	ローカルスタイル (箕澤屋) 箕澤屋 宿泊施設 着	15:00	ローカルスタイル (箕澤屋) 箕澤屋 宿泊施設 着
8月31日 (木)		宿泊施設 発		宿泊施設 発
	9:00	町長懇談 (役場)	9:00	町長懇談 (役場)
	10:00	伊那ケーブルテレビ (役場)	10:00	公民館長・木下分館長 (役場)
	11:00	みのわ新聞 (現地) 昼食		昼食
	13:00	212 (facebook) (伊藤氏 : イオン) 宿泊施設 着	13:30	古田人形保存会会長 (柴会長) 宿泊施設 着
9月1日 (金)		宿泊施設 発		宿泊施設 発
	9:00	役場職員との懇談	9:00	教育長懇談 (役場)
	11:00	長野日報 (役場) 昼食		昼食
	14:30	みのわ未来委員会 (役場) 宿泊施設 着	14:30	みのわ未来委員会 (役場) 宿泊施設 着
9月2日 (土)		まとめ・整理 宿泊施設 発		まとめ・整理 宿泊施設 発
	16:27	伊那松島駅 発	16:27	伊那松島駅 発
2月中旬		再調査・再確認・WS 町への報告 等		再調査・再確認・WS 町への報告 等

※上記の日程のほか、大学との打合せの中で、取材等が追加となる場合があります。